

コンクリートがれき有効利用技術

1. 技術の名称		コンクリートがれきのセメント硬化体としての有効利用技術	
2. 有効利用技術の区分			
①処理方法	<input type="checkbox"/> 無処理 <input type="checkbox"/> 分別 <input checked="" type="checkbox"/> 破砕 寸法： <input type="checkbox"/> 300mm以上 <input type="checkbox"/> 300mm以下 <input checked="" type="checkbox"/> 80mm以下 <input type="checkbox"/> 40mm以下 <input type="checkbox"/> 20mm以下 <input type="checkbox"/> その他 破砕方法(移動式破砕機(ガラパゴスなど) ) <input type="checkbox"/> その他		
②用途	<input checked="" type="checkbox"/> コンクリート用骨材 <input checked="" type="checkbox"/> 盛土材 <input checked="" type="checkbox"/> 埋戻し材 <input checked="" type="checkbox"/> 路盤材 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (下記, 3. 技術の内容 ⑤利用先・用途(実績等)参照)		
③その他			
3. 技術の内容			
①基本的考え方			
最大粒径80mmに破砕したコンクリートがれきを, 特別な粒度調整をせずにセメントと水を混合して, 振動ローラーによる締固め転圧を行い, セメント硬化体として有効に活用する。			
②対象とするコンクリートがれき			
津波堆積物を含むコンクリートがれき (コンクリートがれきには, 軽量ブロック, レンガ, 瓦, タイルなどの無機系材料を含む)			
③技術の概要(処理方法、使用材料、機械設備等)			
 <p style="text-align: center;">破砕</p>		 <p style="text-align: center;">練混ぜ</p>	
 <p style="text-align: center;">敷均し</p>		 <p style="text-align: center;">転圧</p>	
④本技術を活用し、得られた目的物の性状等			
 <p style="text-align: center;">加振締固め性が 良好な配合</p>		 <p style="text-align: center;">加振締固め性が 不良な配合</p>	
<p style="text-align: center;">加振締固め性試験による 適切な配合の選定</p>		 <p style="text-align: center;">水セメント比に応じた圧縮強度発現</p>	
		 <p style="text-align: center;">転圧による良好な施工性</p>	
⑤利用先・用途(実績等) * 適用できない場合なども含めて記述			
想定している適用構造物・部位として ①埋戻し材, 盛土材, 嵩上材, 土留材, 裏込材, ②堰堤中詰材, 基礎工, 路盤材, ③護岸内部材, 堰堤内部材, ④消波ブロック, 根固めブロック, 被覆ブロック, ⑤コンクリート舗装, ⑥漁礁 など			
⑥特許・技術審査証明・NETIS登録状況等			
なし			
⑦コスト			
現在, 精査中			
4. 意見等			
5. 連絡先			
会社名:大成建設	担当者:丸屋, 堀口	所属・役職:技術センター土木技術研究所土木構工法研究室	
所在地:横浜市戸塚区名瀬町344-1	TEL:045-814-7228	E-Mail:kenichi.horiguchi@sakura.taisei.co.jp	